

令和7年度総合計画施策評価シート(令和6年度実施分)

基本姿勢2 地域資源を活かした「産業のしま」	
政策1 水産業の振興	本文P72～74

基本方針	水産資源の維持・回復のため栽培漁業や漁場管理型体制を推進し、漁業経営安定のための各種施策に取り組みます。また、漁業の将来を担う人材の確保や育成、養殖業の拡大を図るとともに、資源増殖と沿岸環境の保全を目指す漁場づくりを推進します。併せて、各関係機関と連携して、漁村地域の活性化、水産業の振興を図り、持続的発展を目指します。
------	--

2-1-① 漁業の将来を担う人材の確保及び育成	担当課	水産課
-------------------------	-----	-----

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	○漁業と漁村を支える人づくり事業を活用して、新規に漁業へ就業する見込みのある者に対し、地元漁業者又は事業所において漁業研修を受け、漁業技術の習得と漁業への着業を目指すため支援を行ってきた。また、漁業就業フェアに参加して、水産業の魅力を発信し、漁業者への就業や研修修了後の着業を支援してきた。
SDGsとの関係性	   <p>【選定理由】 漁業の担い手育成のための研修事業を行うことで、1人でも多く雇用の創出につなげ、漁村地域の活性化さらには地域経済の活性化及び水産業振興を目指す。</p>
評価(問題点とその要因)	○漁業に従事する若者が極端に減少し、どの漁業種においても担い手不足が深刻な状況である。その要因としては、様々考えられるが、やはり低賃金や雇用条件といった基本的な問題がある。また、磯焼け等による水産資源の減少、漁船用燃料の高騰、さらには資材高騰による漁業経費の増大など厳しい環境の中で、漁業所得の向上が図れない現状にある。
今後の取組方針	○漁業者が経営改善に取り組み、儲かる漁業への転換を推進し、漁業者一人ひとりの漁業所得の向上を目指すと共に、事業所においては、機械化を進め少人数での操業を可能にし、できる限り周年雇用の徹底を図ることが重要である。 また、外国人人材の活用について、漁業経営者及び各漁協と連携して推進していく必要がある。

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
	漁業担い手確保	新規漁業従事者数(雇用型・独立型)	人	8	12 13	13 13	14 14	16 14	18 18	100.0%	
1 ★ し り と	《成果指標の進捗状況》				担当課	水産課				R2	
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										A
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	漁業と漁村を支える人づくり事業の研修制度を活用して、2名が研修(独立型)を実施した。担い手確保のための補助金研修制度を活用して漁業に着業した人数は平成30年から10名増加した。研修制度については、研修費が月額150,000円(町単独25,000円上乘せ)という低額であり、生活費としては厳しいものがあり、着業に向けた貯蓄も十分にはできない状況である。また、研修修了後独立し着業しても安定した漁獲量(収入)が見込めるか等の不安材料も多い上、資材高騰による経費の増加など厳しい状況が続いている。										A
	・残された課題、KPI達成のため必要な取組み										R4
	①課題										A
	町内での人員確保も限りがあるため、島外からのI/Uターン者を呼び込む必要がある。そのために、県と連携し就業者フェア等に積極的に参加し、漁業就業者のマッチングを行い漁業の魅力を粘り強く発信し続ける必要がある。										C
②必要な取組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取組みを記載										R5	
雇用型漁業において給料及び雇用条件の改善、さらには、外国人人材の活用を図っていく必要があるため、国・県関係機関及び町内漁業関係者等と検討・協議を行っていく。										R6	
										A	

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○離島漁業再生支援交付金事業や種苗放流事業を活用して、各種種苗を放流し、水産資源の維持・存続を図ってきた。また、貝類の餌などになる藻場(海藻)の回復に向けて、磯焼けの原因究明や食害生物駆除によるブルーカーボンのクレジット化手法の確立に向けた実証試験を行うことで、認証を受けることになった。</p>
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">  </div> <div style="margin-right: 10px;">  </div> <div>  </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>【選定理由】 漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、海洋資源の持続可能な形で利用します。</p> </div> </div>
評価(問題点とその要因)	<p>○種苗を放流することで、漁獲量の維持には繋がっているものの、全体的な漁獲量の増加には至っていない。その原因として考えられるのが、著しい磯焼けのため、貝類の餌場となる海藻・藻場の資源回復及び増殖に繋がっていないことが考えられる。</p>
今後の取組方針	<p>○漁業資源の維持のため、今後も離島漁業再生支援交付金事業による種苗放流を継続していく。また、魚の産卵育成場となるほか、貝類の餌としても大変重要な海藻・藻場の再生に向け、食害動物等の駆除を行い、これまでに整備してきた藻場礁の補修、母藻・種苗の補充をし、藻場の再生に向けて努力を継続していく。さらには、種苗放流後の資源管理を徹底し、放流事業の効果を検証していく必要がある。</p>

2-1. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
1 し と	種苗放流(魚類)	カサゴ、クエ	千尾	116	117 124	117 123	117 88	118 162	118 97	82.2%	
	《成果指標の進捗状況》					担当課	水産課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										A
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	カサゴ25,000尾(離島漁業再生支援交付金事業)、クエ28,100尾(離島漁業再生支援交付金事業18,100尾、五裁協(公)事業10,000尾)、ヒラメ・キジハタ・イサキ・44,100尾(離島漁業再生支援交付金事業)の計97,200尾をそれぞれ沿岸域に放流した。										A
	カサゴ、クエの漁獲が実績目標を下回った主な理由としては、漁業者の魚価所得向上を図るため、放流魚種をカサゴから他魚種(キジハタ等)に変更したことなどが考えられる。										R4
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										C
	<u>①課題</u>										R5
	放流魚については、根魚ということもあり放流直後の乱獲が心配される。										A
	<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										R6
本事業の実施と並行して、漁業者による一層の漁業秩序形成と漁業監視体制の強化を推進していく。										B	

2-1-②	水産資源の維持と資源管理	担当課	水産課
-------	--------------	-----	-----

2-2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
2 し と	種苗放流(介類)	アワビ	千個	96	96	96	97	97	97	89.6%
					65	68	85	67	87	
	《成果指標の進捗状況》				担当課	水産課				R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									
	アワビ87,800個(離島漁業再生交付金事業59,800個、漁協28,000個)の放流に留まり、目標を達成することができなかった。									
	実績が目標を下回った主な理由としては、貝類の餌場となる藻場(海藻)の回復が見られない中、アワビ放流を縮小したことが要因である。一方で、アワビよりもサザエ種苗を望む漁業集落が増えたが、上五島あわび中間育成施設の令和6年度末閉鎖に伴い、生産のタイミングが合わず、県内種苗センターも生産していないことから貝類放流数が減少した。									
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み									
	<u>①課題</u>									
	貝類の餌となる藻場(海藻)の再生及び回復が喫緊の課題であるが、食害生物の駆除などの取組みを実施して多少の効果はみられるが、回復にはいたっていない。									
<u>②必要な取組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取組みを記載										
アワビの餌となる藻場(海藻)の再生及び回復を推進しつつ、並行してサザエのように小型海藻でも成長する種苗に移行する要望もあるため、県内外を通じて種苗の入手に努めたい。										
									各年度の評価	
									R3	
									C	
									R4	
									B	
									R5	
									C	
									R6	
									B	

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○水産業基盤整備については、水産資源の回復や漁場の生産力向上と漁獲量の増大、あるいは、安全で快適な漁業地域の形成をはかるため、漁場の整備、漁港施設の整備を計画的に行ってきた。また、建設年数が古いものについては機能保全も行っている。</p>
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>【選定理由】</p> <p>今後の水産基盤整備事業において、緊急性、必要性の説明はもとより、重点化についても整理が必要となっている。また、機能保全事業をはじめとする多くの公共事業において、採択要件の港勢を規定しているものが多く、採択要件に満たない漁港の取扱いが問題となっており、採択要件に満たない漁港について、漁港合併を進めていく必要がある。</p> </div> </div>
評価(問題点とその要因)	<p>○全体的に水産施設の整備についてはほぼ完了している状況であるが、整備年数が古くなった施設が多いため、修繕箇所が年々増えておりその対策が必要である。</p>
今後の取組方針	<p>○将来的な施設配置を考慮しつつ共同整備も視野に入れて、計画的な機能保全を行い施設の維持補修を行っていく。</p>

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に◇印がついた目標はH30からの減少幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
	町営漁港	※漁港合併による漁港数減少	港	18	18	16	16	16	15	0.0%
					18	18	18	18	18	
	《成果指標の進捗状況》				担当課	水産課				R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									A
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									R3
1	◆	水産基盤整備事業において、緊急性、必要性の説明はもとより、重点化についても整理が必要となっている。また、機能保全事業をはじめとする多くの公共事業において、採択要件の港勢を規定しているものが多く、採択要件に満たない漁港の取扱いが問題となっており、採択要件に満たない漁港について、漁港合併を進めていく必要がある。合併予定の3漁港の平面図作成(令和5年3月)は完了している。								C
ア	イ					・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み				
		①課題								C
		世界測地系に基づく経緯度表示に変更した平面図作成の必要があるが、専門業者への外注が必要であることと、漁港機能分担の整理が困難な箇所がある。								R5
		②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載								C
		漁港合併に関する各漁協との下協議は済んでおり、合併予定港における機能分担の整理、世界測地系に基づく経緯度表示の図面作成が必要である。								R6
										C

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○各漁協の水産関係の設備・機器の老朽化等に伴う更新や改良、予期せぬ自然災害等からの早期復興等には町単独補助金にて支援に努めた。また、漁船保険加入促進事業、漁業近代化資金利子補給事業及び漁業共済加入助成事業を活用して、漁業者の負担軽減を図り漁業経営の安定化に取り組んだ。</p>		
SDGsとの関係性	  	<p>【選定理由】 漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、海洋資源の持続可能な形で利用する。</p>	
評価(問題点とその要因)	<p>○各漁協においては、水産資源の減少、魚価の低迷、漁業者の担い手不足などで、財務状況が厳しくなっている中、水産施設・設備を更新することは、自己資金の負担も生じることから容易ではなく、県補助金の補助要件も年々厳しくなっている。また、漁業者においては、漁業所得の向上を図るため、漁業者の経営改善計画を作成し、経営の改善が必要である。</p>		
今後の取組方針	<p>○各漁協の施設整備に関しては、国・県補助を活用して事業を展開していくことは重要だが、補助要件において漁業者の所得向上が必須条件となり、活用は難しいと考える。そこで、町単独補助金での事業実施が増加することが想定されるため、支援に向けた対応を行っていく。また、漁業の中核組織である漁協の強化を図るため、再編を進めていく。</p>		

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
	魚類養殖生産数	主要3種(ブリ、ヒラス、クロマグロ)の生産数	トン	2,672	2,708 3,232	2,744 4,812	2,779 4,747	2,815 3,838	2,851 3,653	100.0%
	《成果指標の進捗状況》				担当課	水産課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									A
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									R3
1 ★ しごと	漁船保険・漁業共済の掛け金への補助を行い経費負担の軽減と経営の安定化を図ることができた。 自然災害からの復旧を町単独事業で支援した。									A
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み									R4
	①課題									A
	漁業者の担い手不足及び高齢化、魚価の低迷が著しい。									R5
	②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載									A
高値で販売できるようブランド価値を高められるような取り組みを行い、後継者育成や事業者の経営意欲向上につなげる必要がある。									R6	
									A	

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○未利用魚の加工品開発は商品化に至っていないが、アオサ養殖と加工に取り組む漁業集落があり養殖技術と加工技術の習得を目指している。本町の魅力発信及び観光客誘致を行っていくため、幅広い年代に人気のある「釣り」をフックとした取り組みが行われており、釣堀筏をはじめ、国土交通省から認定された「青方港釣り文化振興モデル港」を活用して「手ぶらで釣りが楽しめる」場所づくりと受入体制づくりに取り組んでいる。</p>		
SDGsとの関係性	  	<p>【選定理由】 漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、海洋資源の持続可能な形で利用します。</p>	
評価 (問題点とその要因)	<p>○新鮮な魚介類などを用いた特産品づくりやブランド化、それに未利用魚等の加工品開発は、加工技術及び販路開拓に取り組む課題が多く商品化まで至らなかったが、アオサ養殖が民間及び漁業集落等で行われるようになり、生アオサや乾燥アオサまで加工する動きがある。また、販路については(一社)離島振興地方創生協会の支援もあり、生産体制の構築、さらに「青方港釣り文化振興モデル港」認定を契機とし、JF上五島町と県及び町並びに釣り団体で構成される五島楽釣上五島協議会が主体となり、受入体制の構築と釣り情報発信が重要である。</p>		
今後の取組方針	<p>○既存の水産加工品を安定供給することが重要であり、原材料を確保するため、輸送コスト支援事業など漁業経費負担を軽減する事業を活用して、漁業者の出漁の機会を増やすとともに漁業者の所得の向上に繋げたい。水産業振興のために観光業との連携は重要と考え、漁業関係者の意向を聞きながら積極的に取り組む。釣りをコンテンツとしたツアー造成や定置網漁業などの様々な漁業の体験メニュー作り等について、観光事業関係団体と連携していくと共に受入体制の強化を図っていく。</p>		

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
	観光定置設置数		か統	0	0	1	1	2	3	33.3%	
					—	1	1	1	1		
1 ★ し こ と	《成果指標の進捗状況》				担当課					水産課	R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										D
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	インバウンド需要と国内のサービス消費も回復する中で、有川町漁協自営定置網の体験メニューは、人員の確保等が困難で休止となっているが、奈摩湾において、上五島地区漁業集落が運営している釣り体験メニューは、継続して行われているほか、上五島地区及び有川地区漁業集落においてアオサ養殖を実施しており、今後の地域資源活用による漁村の活性化に期待するところである。また、新上五島町観光物産協会のホームページにおいて、青方港釣り文化振興モデル港の沖防波堤釣り体験などが紹介されている。										A
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	①課題										A
	観光客の誘客推進と新たな人員の確保が必要である。										R5
②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										C	
関係団体と連携して、積極的なPR活動等を実施していく。										R6	
										C	

2次評価委員会からの評価・意見等

原油価格・物価高騰等の影響を受け、漁業者を取り巻く現状は依然厳しい状況が続いていますが、KPIを一部達成するなど、各関係機関と連携し漁業経営安定のため各種施策を推進している。各漁協と連携し、水産資源の維持・回復に努め、さらなる漁業の経営改革、漁業の将来を担う人材の確保や育成を続け、持続可能な水産業振興を目指す必要がある。